

## まちの魅力度アップに 向けた取組を！

### 問

株式会社東洋経済新報社が毎年発行する都市データパックでは、全国813市区を対象に、市区が持つ都市力を安心度、利便度、快適度、裕福度、住民水準充実度の5つのカテゴリーに分類し、ランキング付けた「住みよさランキング」が公表されている。

平成27年度における本市の総合順位は全国第380位で、小幅であるが、毎年順位が低下している。更に、個人消費や、産業関連の伸び率を指数化した成長力は、平成22年の全国第77位から平成27年は第203位と、大幅に順位を下げているが、この成長力の低下をどう分析し、今後、どのような対策を考えているのか。

また、都市間競争時代に、全国の人・企業から「選ばれた地域」になることが重要であると考え、今後、いかにして市の魅力度アップを図っていくのか。

### 答

住みよさランキングについては、合併後、愛

媛県内で3位から5位と安定して推移しており、大きな変動はないと認識しているが、このランキングを上げていく努力が必要であると考え、

今後は、地方創生により、地域間競争が激化する中、住民生活や経済・産業界においても選ばれる地域になることが必要であり、そのために現在、西条市版総合戦略を策定している。成長力の強化につ

ながる企業誘致の促進、地域中小企業の支援などを最重要課題として取り組むことで、安定的な雇用確保や新たな産

業の創出を図り、税収確保を目標したいと考えている。

本市の魅力度をアップすることは、ランキングの上昇につながるだけでなく、市民生活の満足度や企業の誘致・留置とそれに関連する雇用拡大、税収増により、更なる施策の展開など、選択肢や可能性が限りなく広がるものであり、地域資源を最大限に活用した活力のある豊かなまちづくりが必要であると認識している。

今後は、官民協働や地域連携にとどまらず、産学官金の連携により、新たな枠組みの中で、新産業・雇用の創出など、更なる成果を目指し、本市の高いポテンシャルを生かし、魅力度アップにつなげていきたい。

更に、西条うちめき倶楽部においては、「人が人をつなぎ、人が人を呼ぶ」ことができるよう、東京や大阪で情報交換会を開催し、ネットワークを広げるとともに、このネットワークを活用し、魅力発信や情報収集に努め、地域間競争時代の中でも「選ばれた地域」となるよう、さまざまな施策を展開していきたい。

## 地域力の更なる強化を！

### 問

国においては、総合戦略策定から事業推進への移行時期に来ていることを受け、地方創生の深化を図るため、まち・ひと・しごと創生基本方針2015を閣議決定し、国の総合戦略に盛り込まれた政策の拡大・強化を図ろうとしている。

この基本方針2015に関連し、本市では、官民協働や地域連携など、新たな枠組み・担い手・圏域づくりに、どのように取り組んでいくのか。

また、学校を核とした地域力の強化に向けた取組については、どのように考えているのか。

### 答

本市では、これまで独自性のある地方創生のまちづくりとして、総合6次産業都市の取組を中心に、官民協働や地域連携を推進してきた。今後は、そのノウハウを生かし、産学官金連携や高等教育機関と連携した新たな枠組みの中で、新産業・雇用の創出、次世代人材の育成な

どにより、更なる成果を創出していきたい。

また、平成26年度における市内中学生の市内高等学校への進学率は68.パーセントとなっており、地域力の強化には、市内で進学し就職することが重要で、地域を理解し、愛着を深める教育と、その受け皿づくりが必要である。

市内の一部の高等学校では、文系希望の生徒だけでなく、理系希望の生徒の受け皿となるよう学科の新設を愛媛県教育委員会に要望している。今後は、学科の再考などについて、中学校・高等学校、教育委員会が連携を図りながら、西条市内中高校長等連絡会を通じて検討したい。

更に、中学生に市内企業の魅力などを理解させ、就職を見据えて高等学校を選択することや、就職が市内に向かうよう、高校生を対象に開催している就職フェアに中学校の教員も積極的に参加するほか、市内の高等学校と連携し、うちめき未来カレッジや高校生アグリビジネススクールなどの産業人材の育成を目的とした事業も実施している。



西条うちめき倶楽部情報交換会 (大阪会場)